

# 郷音

読者と本紙と

寒天見て、食べて、飛躍願う

2月4日付の本紙  
3面「寒天づくりの

活路 風土産業 価値を見直し  
て」を読んで、三沢勝衛先生が  
提唱された風土産業の振興によ  
る地域発展の現状を自分の目で  
見たくて、妻と2人で大人の社  
会科見学に行ってきました。

寒天は、県が発信する「おい  
しい信州ふーど」にも、信州の  
暮らしに根ざした郷土食として  
位置付けられています。最近

はあまり口にしていませんで  
した。当日は大雪後の晴天、雪原  
の中にある寒天工場の横で、若  
い後継者の方が、寒天づくり  
に適した気候、凍みの食文化、新  
たな商品開発などについて分か  
りやすく説明してくれ、明るい  
未来を感じました。

諏訪地方では、乾燥した空気  
や豊富な水と水力を活用して製  
糸業が発展し、精密機械工業へ  
と継承されました。そして今年

は、月面探査機のピンポイント  
着陸に諏訪の企業の技術が貢献  
するとう明るい話題も伝えら  
れています。

帰宅後、直売所で買った新製  
品の食感や、生寒天・棒寒天の  
食べ方をいろいろ楽しみ、風土  
に根ざした寒天にはまだまだ可  
能性がある、飛躍してほしいと  
いう気持ちになりました。

長野市 赤羽 昭彦

(会社員・69)